



リンゴ病(伝染性紅斑)について

☆リンゴ病(伝染性紅斑)とは？

ヒトパルボウイルス B19 によって引き起こされるウイルス性感染症です。

頬がリンゴのように赤くなるのが特徴です。

年によって多少のパターンの違いはありますが、年始から7月上旬にかけて増加し、9月頃が最も少なくなります。

5～9歳での発生が最も多く、次に0歳～4歳に多く見られますが、ときには大人がかかることもあります。

☆どうやって感染するの？

感染した人の鼻汁、咳やくしゃみなどが、鼻の粘膜や口から体に入る飛沫・接触感染です。感染してから頬に紅い発疹が出るまでに10～20日くらいと報告されています。



☆症状は？

- ・ 頬に紅い発疹（蝶翼状ーリンゴの頬）が現れます。続いて手・足に網目状・レース状・環状などと表現される発疹がみられます。胸腹背部にもこの発疹が出現することがあります。この発疹は1週間くらいで消失します。
- ・ 頬に発疹が出現する7～10日くらい前に、微熱や感冒様症状（咳、鼻づまりなど）などが見られることがあります。（この時期がウイルスの排出量が最大になるとされています。）
- ・ 大人では関節痛・頭痛などを訴え、関節炎症状により1～2日歩行困難になることがあります。ほとんどは合併症をおこすことなく自然に回復します。

*** 妊婦の場合は胎児の異常や流産を起こす可能性がある**ので注意が必要です。

☆治療方法は？

特異的な治療法はなく、発熱や咳、鼻づまりなど、それぞれの症状に対する対症療法が中心です。

☆予防方法は？

リンゴ病（伝染性紅斑）のウイルスに有効なワクチンはありません。

マスクを着用して外出しましょう。また、こまめに手洗い、うがいをしましょう。

